

学際的視野から福祉・生活問題を研究し、福祉社会の構築に 寄与する福祉専門職、福祉教育・研究者を育成します

ディプロマ・ポリシー (学位授与に関する方針) Diploma Policy

- 福祉を学際的に学ぶことで、より広い視野から社会の問題を研究し、誰もが心身ともに豊かに生活できる福祉社会の創造と実現に貢献できる福祉人材として、求められる倫理観と研究能力を身につけていること。
- 高齢者・障がい者、保健・医療、子ども・家庭などの福祉の各専門領域を地域福祉、国際福祉の視点から横断的に学ぶことで、各領域における福祉を実践し、対人援助および社会活動を展開できる知識・技術、実践力を身につけていること。
- 基礎から応用科目、専門科目、特別講義からなる本研究科教育課程において所定の単位を修得し、学位規程に定める修士論文の審査、および最終試験に合格すること。



カリキュラムポリシー Curriculum Policy

- 教育研究上の目的および学位授与方針に則り、基礎から応用科目、福祉の各領域に対応する専門科目、さらに視野を広げる特別講義まで、体系的に修得できるよう各科目を配置する。
- 研究を進め、論文を作成する過程に不可欠な文献の読み方、社会調査の方法、科学的思考を身につけるために基礎論を置く。
- 特に、総合大学の特長を生かし人文・社会、医療の各研究科・学部との共同教育が可能となるよう高齢・障がい者、子ども・家庭、保健・医療の各福祉領域に対応する専門科目を置く。
- 福祉に関する視野を広げ、現在の福祉を再考し、生活の豊かさとは何か、豊かに生活できる



る福祉社会とは何かを研究・考察するため、女性学、社会学、子ども・家庭福祉、地域福祉、国際福祉などに関する最先端のトピックを取り入れた特別講義科目を置く。

アドミッションポリシー Admission Policy

- 社会福祉または近接領域等における学び、あるいは福祉に関わる実務体験等を経て、福祉社会を創造することの必要性を認識し、その実現に資する研究に取り組む意欲をもつ人。
- 異なる文化や価値観、多様な人々のライフスタイルを理解し、共感できる広い視野と柔軟性を備えた人。
- 本研究科での学びを強く希望し、福祉を広い視野から再考し、構築するための専門性や実践力、研究能力を身につけたい人。



Voice | 修了生の声

助け合い、尊重することが一番の真髄

中国の東北師範大学人文学院を卒業し、福祉総合学研究所で中国の福祉について精一杯研究しました。先生方の温かい指導のおかげで、社会調査法や修士論文の作成方法も身につけ、更に海外研修に参加して、グローバルな視野を拓きました。お互いに助け合い、尊重することは、大学院生活で学んだ一番の真髄だと思います。

索 宏 (サク コウ) さん

2016年3月福祉社会専攻修士課程在学中
中国人留学生 経営情報学研究所博士後期課程在学中



大学院で学ぶことで目標が明確になりました

大学院における高度で専門的な学びや、先生方の関わり、温かい指導のおかげで、真摯に向き合い、理解を深めることができました。卒業後は、専門学校での就職を経て、大学に移り、現在は教員として教壇に立つ傍ら、障がい者支援にも携わっております。大学院での生活は、その後の私の人生に大きな影響を及ぼす、貴重な時間となりました。

岡田 圭祐さん

2004年3月福祉社会専攻修士課程在学中
浦和大学短期大学部 介護福祉科講師



各分野のスペシャリストに多くを学びました

各分野のスペシャリストである先生方に巡り会えたことが今となっては私の大きな財産となっています。インターンシップで学部生とともに福祉文化環境研修(海外)でオーストラリア研修に参加したり、JILUならではのカリキュラムの中で時間を無駄にすることなく濃密な学生生活を過ごさせていただきました。

田中 孝明さん

2009年3月福祉社会専攻修士課程在学中
社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会勤務



Professor | 教授紹介 / 専門分野

研究科長/教授 岩田 泉 Izumi Iwata 臨床心理学、精神保健福祉論	教授 増子 勝義 Katsuyoshi Masuko 福祉社会学、福祉社会学論	准教授 広瀬 美和 Miwa Hirose 発達心理学、発達障害支援論
教授 井上 敏昭 Toshiaki Inoue 文化人類学、福祉社会学研究法	教授 所 貞之 Sadayuki Tokoro 児童福祉学、福祉社会学	准教授 佐野 智子 Tomoko Sano 児童臨床心理学、海外事例研究研修
教授 堀 千鶴子 Chizuko Hori 女性福祉学、現代社会と女性福祉	教授 清水 正美 Masami Shimizu 社会福祉学、障がい・高齢者ソーシャルワーク論	助教 大内 善広 Yoshihiro Ouchi 教育心理学、社会調査論
教授 石田 路子 Michiko Ishida 医療福祉学、医療ソーシャルワーク論	准教授 林 和歌子 Wakako Hayashi 社会福祉学、国際高齢者福祉論	

Feature | 特色

福祉社会専攻では、基礎論における福祉の最新の研究法、社会調査法の習得を基礎に、高齢・障がい者福祉研究、子ども・家庭福祉研究、保健医療福祉研究の各学問領域を選択して、それぞれのテーマ、問題意識について深く研究することが可能です。また、女性学、生命科学、共生社会学などの他の学問分野、および国際高齢者福祉論、国際児童福祉論、国際医療保健論などのグローバルな視点から福祉を捉え直し、インクルージョンを前提とした真の福祉社会を構築するには、どのような社会問題を解決し、どう個人のパラダイム転換を図るかなど、福祉学の新たなミッションを意識した研究を進めることが可能です。

■ 高齢・障がい者福祉研究領域

認知症のケア、高齢者の孤独死、高齢者・障がい者虐待、貧困、排除・偏見など的高齢者、障がい者を取り巻くこれらの問題は、世界に共通した、早急に取り組まなければならない課題です。本研究領域では、高齢・障害者ソーシャルワーク論を中心にしながら、これらの課題を研究し、さらに加齢学、施設経営、社会起業、国際高齢者福祉などを学びます。

■ 子ども・家庭福祉研究領域

少子社会における子ども・子育て問題は、マルチリトメントとしての虐待や保育問題、現代における家族のあり方や家族政策にも関連する問題です。また、障がいを持つ子どもの養育や保育、および特別支援教育は、国際的視野においてノーマライゼーションをどう具体的に実現していくかという前提の上に研究が進められる必要があります。本研究領域では、ファミリーソーシャルワーク論を中心に、障がい児保育、発達障がい支援、家族社会学、国際児童福祉などを学び、特に保育や障がい児支援について実証的に研究を進める方法論を学びます。

■ 保健・医療福祉研究領域

保健・医療の問題を福祉の視点からアプローチし、医学モデルと社会モデルの統合を目指す新しい研究領域です。特に、難病の方々の福祉的ケア、精神障害者の社会復帰、人の死とターミナルな場面における個人と家族の心のケアなど新しい理論と実践を研究します。本研究領域では、医療ソーシャルワーク論を中心に、精神保健福祉と権利擁護、病院マネジメント、グリーフケアと傾聴、国際保健医療などを学び、医療と福祉をどう結び付け、人々のニーズに合わせた、より人間的な保健・医療福祉のあり方を考えます。

■ 東京紀尾井町キャンパスと東金キャンパスのどちらでも学べます。

仕事を続けながら、子育てをしながら修士の学位取得をめざす社会人を対象に、東京紀尾井町キャンパス(一部の科目を除く)でも授業を開講します。

■ 社会人向けの修士課程1年プログラム

福祉についての実務経験をもつ社会人、および国家資格などの有資格者は、各科目について十分な知識をもつと判断される場合には、事前の面接をもとに当該科目について試験をおこない、能力を確認し単位を認定します。加えて社会福祉演習(修士論文指導含む)を修得し、修士論文審査に合格した場合には、修士課程を1年で修了することができます。

Course | 修了後の進路

■ 修了者の進路先実績

浦和大学短期大学部教員、千葉敬愛短期大学教員、城西国際大学福祉教育センター、京葉福祉専門学校、千葉県児童相談所、千葉県社会福祉協議会、鶴岡市社会福祉協議会 等